

シェアリングエコノミー の課題と発展

2020年9月15日

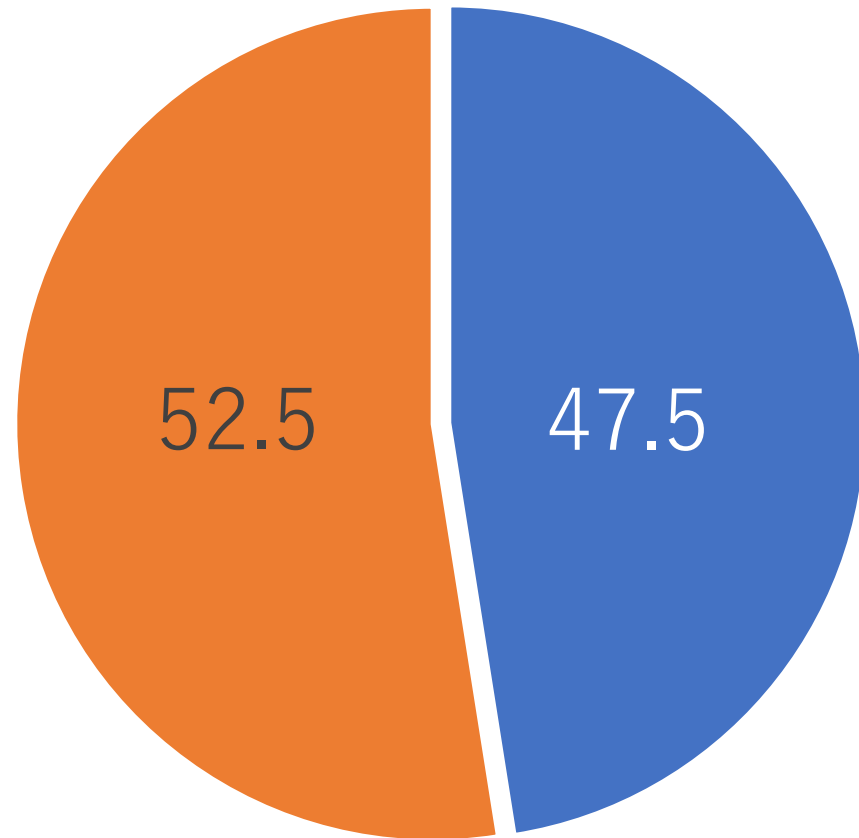
AT0850 つる

目次

1. シェアリングエコノミーの現状
2. 課題
3. 企業の取り組み
4. 提案
5. 参考文献

1. シェアリングエコノミーの現状

• 認知度 [2]



利用経験者は
15.4%

- 知っている
- 知らない

1. シェアリングエコノミーの現状

- 利用経験者の年代

→10代～70代の中で、

20代と30代の若年層が6割を占めている[2]

1. シェアリングエコノミーの現状

- シェアリングエコノミーの役割

- ① **遊休資産**の活用
- ② **地域社会**の活性化[1][7]
- ③ 環境に優しい

- 新型コロナウイルスの影響

→ 「シェア」への**抵抗**

シェアリングの種類によって影響が異なる

2. 課題

- 情報の非対称性[5][6]

→市場の正常な取引を妨害

- 法的整備が整っていない[4]

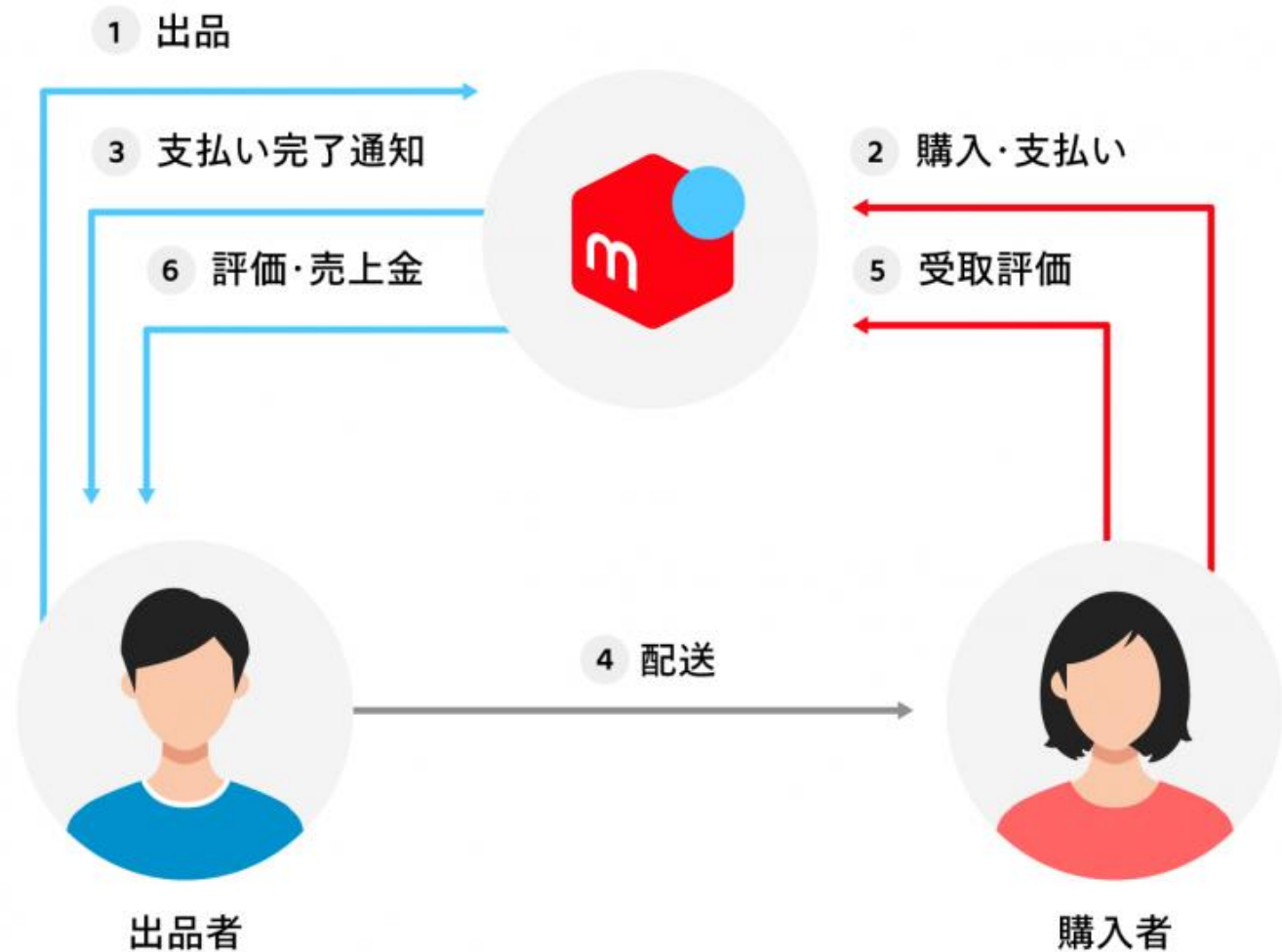
→労働者であるのに法的保護受けられない状況

3. 企業の取り組み

- 株式会社メルカリ [3]

→ 安心・安全な取引のために

- ① レビューシステム
- ② 公的機関との連帯
- ③ 本人確認強化



4. 提案

- 若年層への宣伝

→利用者が多い年代である

情報の非対称性問題が起こりにくい

5. 参考文献

- [1] 一般社団法人シェアリングエコノミー協会. <https://sharing-economy.jp/ja/> (最終閲覧日7月22日)
- [2] 国内シェアリングエコノミーに関する意識調査2019,PWC, <https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/sharing-economy1907.html> (最終閲覧日7月22日)
- [3] 株式会社メルカリ, <https://about.mercari.com/> (最終閲覧日7月22日)
- [4] 川上資人,シェアリングエコノミーに関する法的課題(諸外国におけるシェアリングエコノミー),Business labor trend,2017

5. 参考文献

- [5] 中川正悦郎, シェアリングエコノミーに対する消費者の知覚リスク・知覚ベネフィットが態度と利用意図に及ぼす影：民泊サービスを対象として, 亜細亜大学経営論集53(2), 2018.
- [6] 柴田怜, シェアリングサービスの普及に伴う経済圏の創出と諸課題, 聖学院大学論叢, 2020-03, p57-71.
- [7] 野田哲夫, 田中哲也, 王皓, 泉洋一, 角南英郎, 野澤功平, 地方におけるシェアリングエコノミー政策の展開と課題, 経済科学論集45, 2019-03, p.1-29.